

「ありがとうマーク」を手作り

ももやま会 障がい児たちに理解をと呼びかけ

と目で分かりやすい場合と、発達障がいや知的障がいのように分かりづら
い場合があります。周囲
には理解を得られないの

障がいはひ

「桃山会」は発達障がいや知的障がいの子どもを持つ母親たちの会。互いの悩みを打ち明けながら、子どもたちが健やかにすすくと育ち合えるように支え合っています。

で、悩みの種になっていることもしばしば。災害時の対応にも不安があります。5年前の発足当初からの課題の1つにもなっています。

そこで目を付けたのが「感謝のメッセージを付けたバッチやキーホルダーを手作りして知ってもらう」『ありがとうマーク』＝写真＝です」と制作活動に乗り出した岩野



「ありがとうマークのバッチを知って」と中村さん



町の中村優子さん。同会デザインの担当したのはのメンバーで、小学2年生の障がいを持つ子どものお母さんです。バッチの制作は群馬県桐生市の障がい児の母親の会から学びました。今年2月に制作メンバー4人で新たに「ももやま会」を設立し、「ありがとうマーク」の制作活動をスタート。偏見による外出先での特

部1年の秋本慎ノ介さん。生き物を描くのが得意でモチーフに選んだのは、幸せの青い鳥と四葉のクローバーでした。

「マークを大勢の人たちに知ってもらい理解を広めると同時に、差別や

有の悩みが、軽減されることを願っています」と中村さんは力強く話してくれました。

o.jp

バッチ、キーホルダー購入の問い合わせは目
onyama_kai@yahoo.c